9月は世界アルツハイマー月間です

アルツハイマー病とは、脳の神経細胞が減少して働きが悪くなることで脳が委縮する病気で、認知症をひきおこす病気の一つです。国際アルツハイマー病協会（ＡＤＩ）は、世界保健機関（ＷＨＯ）と共同で毎年９月21日を「世界アルツハイマーデー」と設定し、この日を中心に認知症の啓蒙活動を行っています。また、９月は世界アルツハイマー月間として、認知症の理解と本人や家族に対する施策の充実を目的に、世界中で認知症を理解するためのパネル展示などのさまざまな活動が行われています。

問い合わせ先　新宮町福祉センター内　地域包括支援センター　☎963－0663

認知症ってなに？

認知症とは、いろいろな原因で脳の司令塔の働きに不都合が生じるため、記憶力や判断能力が低下し、日常生活に支障がでる状態が６か月以上継続している場合をいいます。

認知症を引き起こすおもな病気には、アルツハイマー病のほかに、脳こうそく、脳出血、脳動脈硬化などによって、神経細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その部分の神経細胞の働きが悪くなる脳血管性のものなどがあります。

記憶力や判断能力などの低下に加え、性格、環境、人間関係などの要因により、怒りっぽくなったり、不安になったりする行動・心理症状がでるなどします。

具体的な症状

○もの忘れ（数分前、数時間前の出来事をすぐに忘れる）
○時間・場所がわからなくなる（慣れた道で迷うことがある）
○理解力・判断力が低下する（手続きや預金の出し入れができなくなる）
○仕事や家事・趣味、身の回りのことができなくなる（洗面や入浴の仕方がわからなくなる）

【加齢と認知症による「もの忘れの違い」】

認知症の現状とこれから

町の人口は、令和３年４月末現在、33,618人、高齢者人口（65歳以上）6,273人です。65歳以上の約２割の人が認知症（予備群を含む）と言われていますが、それをあてはめると、現在町には、認知症の人が1,250人以上生活していることになります。

また、町の今後の動向として、65歳以上の人口は、令和10年には7,290人、令和17年には7,797人になる見込みとなっています。（介護保険広域連合推計）

この数字を参考にすると、今後認知症を発症する人数は、３年後の令和６年では1,458人、10年後の令和13年には1,559人と確実に増えていくことが見込まれます。

このことから、認知症の人や家族を地域全体で支え、見守るための取り組みがますます大切になります。

オレンジリング

「認知症の人を応援します」という意思を示す目印がオレンジリングです。認知症サポーター養成講座を受講した人にお渡ししています。

認知症は誰もがなる可能性があります。しかし、認知症になってもまわりの人のサポートや、安心できる環境、適切な治療があれば、自分らしい生活を長く続けることができます。そのためには、私たちが認知症のことを正しく理解し、認知症になっても楽しみややりがいをもって日常生活を過ごせるまちをつくっていくことが重要です。

町では認知症を理解するために、このような取り組みを行っています。

町立図書館で、認知症に関する本の特設コーナーを開設しています。図書館に立ち寄った際は、手にとってご覧ください。

認知症の広報や啓発活動　この日は日ごろから高齢者の見守り活動を行っている町内事業所に行きました。

認知症サポーター養成講座を行っています。認知症サポーターとは認知症の人や家族を応援する人のことです。正しい理解のもとで認知症の人と接するときの心がまえを学びます。

認知症啓発活動の一環として、昨年度はそぴあしんぐうで「ケアニン」の上映会を行いました。介護の現場を題材にした新人介護福祉士の成長の物語です。今後も認知症啓発映画の上映会の開催を予定しています。

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、相談窓口として、町福祉センターに地域包括支援センターを設置しています。

▲町地域包括支援センターマスコットキャラクターむーむーさん

身近な人の様子や変化に気づいたときは、１人で悩まずに、町福祉センター２階地域包括支援センターへ気軽にご相談ください。

☎963－0663（おーむーむーさん）